

人間尊重の気風がみなぎる 園・学校づくりを目指した継続的な取組の充実

わたしの学校には、胸をはれる校風があります。
それは「自分と仲間を何よりも大切にする校風」です。
先輩たちから受け継いだこの校風をみんなで守り、さらによりよくしたいです。



～「ひびきあいの日」の優れた取組を継続して行っている園・学校 3園・29校を「人権文化あふれる学校賞」として特別表彰～

特別表彰された学校の実践事例を紹介します。

○「やさしい心」「感謝する心」が育まれるよう祖父母や地域の方と関わる活動を継続しています。

～養老町立養老幼稚園＜平成19～26年度「ひびきあい賞」＞～
＜継続して取り組んでいること＞

- ・子どものよさや頑張りを認め紹介する「きらめきみつけ」を家庭と連携して行っている。
- ・祖父母に学ぶ「昔遊び」や「餅つき会」を毎年開催している。
- ・子どもが、園での出来事を保護者に話す「伝える宿題」の取組を進めている。

＜今年度工夫したこと＞

- ・「きらめきみつけ」を園の教育目標「やさしい心を持ち、誰とでも仲良くする子」と関連付けた3項目で行い、子どものよさを3色の色紙に記入して掲示した。
- ・園児が祖父母などに手作りプレゼントを渡すとともに、自分の言葉で感謝の気持ちを伝える場を設定した。
- ・保護者に対して「(子どもの話を)聞く宿題」の働きかけを行った。



昔の遊びを通して、祖父母に学ぶ。

「人権文化あふれる学校賞」表彰校から学ぶ実践のポイント

- 1 昨年度の実践の成果と課題を踏まえ、「ひびきあいの日」を核とした年間の指導計画の工夫改善を図る。
- 2 児童会や生徒会を活用した、児童生徒の自主的・実践的な活動を大切にする。
- 3 人権教育の観点を位置付けた授業や個別の人権課題を取り上げた授業の充実を図る。
- 4 安心して生活・学習ができる環境づくり（特に言語環境）を進めるとともに、教師自身が研修を通して人権感覚を磨く。
- 5 家庭や地域と積極的に連携を図り、取組のよさを園児・児童生徒が実感し、自分や仲間、園・学校、地域を誇りに思うことができる（好きになる）ようにする。

○学校・地域の「人権宣言」を基に、学校・家庭・地域が一体となった活動を継続しています。

～関市立緑ヶ丘中学校＜平成19～26年度「ひびきあい賞」＞～
＜継続して取り組んでいること＞

- ・平成19年に生徒会が掲げた「信緑宣言」に基づいて活動を企画・運営し、思いやりの心と規律と活力のある生徒会活動を積み重ねている。
- ・地域への感謝の気持ちや地域の一員としての自覚を育むため、「心をつなぐ花活動」「地域清掃活動」を実施している。
- ・緑ヶ丘中学校区青少年健全育成協議会や地域共生会議と連携し、「思いやり標語」の募集やボランティア活動等で活躍した生徒の表彰を行っている。



地域共生会議による善行表彰「緑のさわやか賞」の表彰式

＜今年度工夫したこと＞

- ・インターネットによる人権侵害やネットトラブルを未然に防ぐため、生徒会が中心となって「MiDoRi ネット宣言」を採択した。

○「福祉の日」「命かがやく日」を設定するなど、「共に生きる」をテーマにした活動を積み重ねています。

～本巣市立席田小学校＜平成18～26年度「ひびきあい賞」＞～
＜継続して取り組んでいること＞

- ・児童会の合言葉「こだま」に関わらせた「あいさつキャンペーン」や児童会、PTA、地域と連携した「福祉の日」の取組を継続している。
- ・福祉委員会が中心となって、日常生活の中で温かい言葉遣いができるように働きかけを行っている。
- ・高齢者や障がい者と継続的に交流する活動を行い、「席田まつり」において「共に生きる」をテーマにした学習の成果を発表している。

＜今年度工夫したこと＞

- ・毎月11日を「命かがやく日」とし、「命の尊厳」について考え、自他を大切にする心や行動力を育む活動を行った。
- ・PTAと連携し「家庭教育8ヶ条」と関わらせて、人権意識の高揚を図る活動を考えた。



「命かがやく日」に、いじめの辛さとそれを乗り越えて生きる大切さについて話を聞く。

みんなの幸せは身近なところから
～後輩の皆さんに伝えたいこと～

私たちは、平和学習や同和問題の学習を通して、誰もが幸せに生きられることについて考えてきました。現実起こったことや問題を正しく理解することは、その問題で苦しむ人の気持ちを理解することにつながります。そして、その問題に直面したとき、自分が正しく判断して行動するものになります。同和問題についていうと、今もまだ、間違った情報が流れています。授業で学んだことを生かすことができるように、間違っていることに対して「それは違う」とはっきり言える自分になりたいと思っています。

人権の学習を通して、自分の身の回りはどうかと考えました。私はいじめも同じことなのではないかと思いました。悪口を言うことも、本当かどうか分からないようなうわさを流したり、それを簡単に信じたりすることも、差別していることと同じだとも思います。みんなの幸せは、身近なところから築いていくのだと感じました。

卒業まであと三ヶ月。自分たちの班やクラスで起きている問題を、他人事ではなく、自分の問題として真剣に考え、仲間と関わり合って生活していきたいと思っています。

【「ひびきあいの日」第三学年の発表から抜粋】
〔岐阜市立岐北中学校（平成十八、二十、二十六年）「ひびきあい賞」〕

○「人権LHR」を計画的に実施し、生徒自らが人権について話し合う活動を継続しています。

～県立岐阜農林高等学校＜平成19～26年度「ひびきあい賞」＞～
＜継続して取り組んでいること＞

- ・全校一斉「迷惑調査」を実施し、人権に関わる問題が発生していないかを継続して見届けるとともに、調査項目に自分の人権意識を見つめることができる項目を設けて啓発をしている。
- ・毎年、全クラスにおいて「人権LHR」を行い、クラスごとにテーマを決め、生徒が主体的に取り組んでいる。
- ・実施したLHRについて、担任が作成した報告書を校内で共有し、全教職員が今後の指導に生かすことができるようにしている。



「障がい者の思い」「SNSのマナー」等をテーマにした人権LHRの実践

＜今年度工夫したこと＞

- ・迷惑調査の回数を増やし、記名式にすることで一人一人への指導・援助を徹底できるようにした。
- ・担任と生徒が個別に面談する時間の確保に努めた。